

書評・書評・書評・書評・書評・書評・書評・書評

### 「この原発を動かしてよいのか？」

#### 新潟県原発検証委員会をめぐって

池内了論文 『世界』6月号(岩波書店)

「三つの検証」は重大な局面を迎えている

東京電力の柏崎刈羽原発新  
潟県柏崎市、刈羽村)は1号機  
(110万kw)が1985年に  
稼働を開始して以来、97年  
に稼働した7号機(135・6  
万kw)まで7基の原発を抱え総  
出力821万kwという世界最  
大の原発基地である。

10年前の東電の福島第1原  
発で発生した苛酷事故の影響  
で、いったんは日本の原発は  
すべて停止したが、特に安倍  
自公政権、菅自公政権の原発  
再稼働への強い意欲があり、  
合わせて産業界からの原発再  
稼働の声が高くなって、また  
そろそろ原発の安全神話が復活し  
つつある。

そんな中で熱く注目される  
のが柏崎刈羽原発の再稼働の  
行方である。表記・池内了論  
文では、この点について適切  
な分析、説明がなされている。  
というのも、池内了氏は、新  
潟県が設置する「新潟県原子  
力発電所事故に関する検証総  
括委員会」の委員長である。

検証委員会は、福島事故の  
経過やもたらされた結果を系  
統的に検証するとともに、そ

の教訓を柏崎刈羽原発の安全  
性に活かすことをめざしてい  
る。原発立地県では唯一の設  
置であるが、その意義は非常  
に大きく画期的なことである。

具体的には、①事故原因、  
②健康と生活への影響、③安  
全な避難方法の「三つの検証」  
委員会体制を組み、「三つの  
検証」結果を取りまとめる検  
証総括委員会が発足している。

事故原因の検証に当たる技  
術委員会は、2002年、東  
電のトラブルの隠蔽・改ざん  
事件が発覚した際、大きな衝  
撃を受けた平山征夫知事が、  
原発の安全性を主体的に検討  
すべく03年に発足させた。

続く泉田裕彦知事は、07年  
の中越沖地震を受け、技術的  
側面だけでなく、地震、地質、  
地盤に関する小委員会と設備  
健全性、耐震安全性小委員会  
を設置して技術委員会を強化  
した。11年の福島事故を受  
け、泉田知事は「事故の検証  
と総括がないまま、柏崎刈羽  
原発の再稼働はありえない」  
と再三強調した。16年、泉  
田知事退任後に立候補した米

山隆一氏が「三つの徹底的な  
検証」を公約に掲げ、自公推  
薦候補を大差で破り当選。1  
7年10月に現在の「三つの検  
証」委員会体制を、18年1  
月に検証総括委員会を発足さ  
せた。泉田知事の立場を「三  
つの検証」に拡大した。

現在の自公推薦の花角英世  
知事も「三つの検証を引き継  
ぎ、その検証結果が示されな  
い限り原発再稼働の議論を始  
めることはできない」とした。  
さらに公約で「検証結果を踏  
まえて、市町村、関係機関な  
どと実効性ある避難経過の検  
討を行う」「検証結果は広く  
県民の信を問うことも旨めて、  
県民の意思を確認するプロセ  
スが必要と考える」とまで踏  
み込んでいた。

しかし、昨年春頃から検証  
委の自律的運営から議論を急  
がせるなど県の担当部局の態  
度が変化している。技術委と  
生活委の報告は総括委にはか  
られず知事に提出される。技  
術委の中心的委員の再任拒否  
も起きている。「三つの検証」  
は重大な局面にある。

## 原発問題の解説

### 原発の日本立地の七重の潜在的危険①(1) 営業上事故発生でも運転停止しない危険

原発の日本立地の七重の潜在的危険の七番目が営業上の  
危険である。日本の電力会社は、原発を世界有数の  
地震・火山列島に立地しながらそれへの安全対策は  
措置しない一方で「安全神話」宣伝を垂れ流しなが  
ら原発を運転をする営業上の危険を持っている。そ  
の典型が、事故が起きても運転を停止しない危険で  
ある。昭和64年(1989)1月1日午後7時2分、  
東京電力の福島第2原発3号機で原子炉再循環ポン  
プの水中軸受リング脱落事故が起きた。原子炉内な  
どに摩耗金属粉等の発生量は30〜33g、残存金属片  
は最大4個(最大重量1.6g)とされた。東京電力は、  
事故の警報が鳴り続く中でも、原子炉を止めず、停  
止したのは1週間後の7日であった。実はこの日が  
定期検査入りの日であった。しかも東電がこの事故  
を周辺自治体に通報したのは2月に入ってからだっ  
た。住民運動がこの事故の現地調査に入ったのは、  
昭和天皇の大喪の礼の日(2月24日)の前日であった。

### 編集後記

◆埼玉県深谷市の「さくら・  
さくらんぼ保育資料室」  
(第17号。6月15日発行)紙  
面に、「げんぱつ」(3月  
号)で紹介した福島県楡葉  
町の宝鏡寺に「非核の碑」  
と「原発悔恨・伝言の碑」  
のニュースがスナップ写真  
とともに掲載された。写真  
は高画質のため、「げんぱ  
つ」紙より鮮明に刷り上がっ  
ている◆「実は区画整理の  
ため、やむなく居住を移り  
ました。購読料は22年3  
月まで払っているとのこと  
でしたが、それまで新住所  
に入れてくだされば有難い  
です」「みなさんの活動応  
援しています」と東京の読  
者から便り。事務局の斎藤  
さんのアイデアで、帯封の  
末尾に読者のみなさんの紙  
代納入状況が記されていま  
す。ご確認ください◆新型  
コロナウイルス対策の65歳  
以上の高齢者対象のワクチ  
ン注射が始まり、柳町事務  
局長も2回目を終える。